

子育て支援だより

「子育てワンポイントアドバイス」

第132回 「面倒なことが脳の発達に有効！」

みえ発達障がい支援システムアドバイザー 竹村 マミ

最近、保育士や保健師から、「『気になる子』が増えている」という声をよく耳にします。「言葉が遅い」「力加減ができない」「姿勢保持ができない」「切り替えが悪い」等。子ども自身の発達もありますが、生活が便利になった分、そのために必要な思考や言動が減ってきているのも原因のように思います。

例えば、自動販売機は、人とやりとりをしなくても必要な物が手に入ります。手洗いは、操作をしなくても蛇口を押すだけ、もしくは手を近づけるだけで簡単に水が出ます。

遊びについても、テレビやゲームが主流となるまでは、積木、ブロック、ままごとや、戸外でいっぱい身体を動かして遊んだと思います。積木やブロックは、イメージを膨らませながら何かを作り上げていく創造力や力加減が育ちます。ままごとは、役割分担を決めたりしてやりとりの力が身につきます。戸外に出て、砂や石、木、葉っぱ等、自然物を実際にいろいろな物に触れることは、「サラサラ」「カチカチ」「チクチク」「フワフワ」といった感触が、物事を深く広く考える力につながり同時に感情も豊かにしてくれるそうです。

それから、しっかり身体を動かして遊ぶことは、発達のためにとても大切なキーワードとなります。作業療法士という専門家の方から、スマホやゲームは、上手にできても脇をしめて固定させて指を動かすだけなので、決して器用だとは言えないとかがいました。しっかり肩を動かすことができると、次に肘、手指先へいくので、「うちの子、ちょっと不器用だな」と思われたら、まずは、重い物や大きい物を持つたり高い所から物を取ったりして、肩をしっかり動かすことが良いとのこと。姿勢保持が難しいお子さんには、ブランコに乗ったり、つり橋のような不安定な所を歩いたり、床を雑巾がけしたりするとよいそうです。

あえて、面倒なことをすることが、脳に良い影響を及ぼし、考える力が育つといえるでしょう。

お子さんの発達について気になることがありましたら、子育て健康課（377-5652）まで、ご相談ください。

11月活動報告

あさひ園

朝日中学校2年生による職場体験



多世代交流



お兄さんお姉さん、
おじいさんおばあさん
みんなやさしかった！